

令和7年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末(クォーター制講義を含む)に、学生を対象として「授業改善に資するアンケート」を実施している。このアンケートの結果に対する所見や、教育改善のための有益なコメント・要望などを、授業担当教員に「授業改善メモ」として提出してもらい、その内容を取りまとめたうえで、ホームページ上に公開している。

以下に、令和7年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを、

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

に分類し、科目群ごとに紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

初年次セミナーⅡ

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 「1時間以上1時間30分未満」が45%で最多、「30分以上1時間未満」が38%と続き、1時間以上学習した受講生が計58%に上った。授業時間外の学習が概ね定着していると思われる。
- 回答は1時間～1時間半もしくは1時間半～2時間のどちらかだったが、個人差のほか、授業の前半か後半かという時期によっても異なると予想されるので、これだけ見ても何ともいえない。
- レポートをまとめる課題に対して掛ける時間にしては、毎週1時間以上必要ではないかと思うが、4割程度が1時間未満だった。これ以上学習時間を積み上げる動機となる要素が見当たらない。
- 担当クラス平均では、授業時間外学習が週1時間以上1時間30分未満の学生が最も多かった。小テストや提出課題、最終レポートの執筆を考えると妥当な学習量ではないだろうか。
- 担当している3クラスとも30分以上1時間30分未満という回答が多かった。1クラスだけ30分未満の割合が多かった。
- 回答者の限りでは、大学設置基準で要求されている標準的な授業時間外学習の時間には及ばないものと思われる。
- 授業時間以外の学習・探究の時間が「1.全くしなかった」は、0%となっているが、「2.30分未満」が10%見受けられた。全体的には、学習時間が、概ね確保されている。
- 少ないように感じるが、学習時間だけでなく、普段から「考える」ことをしてきたことが、最終レポートからわかる。

(対応、授業改善案)

- 課題を増やすのではなく、教員からのフィードバックを厳しくし、レポート課題をより念入りに確認させる動機を生み出す工夫が必要だろう。
- 初年次セミナーⅡの各クラス共通で課される課題に加え、担当クラス独自の課題も課したが、時間としては短いので、課題をもっと増やしてもよいのかもしれない。検討したい。
- 事前学習、事後学習の授業進行における位置づけと目的について、適宜説明していきたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- 「十分得られた」31%、「おおむね得られた」69%で、合計 100%の受講生が学習成果を実感しており、「あまり・全く得られなかった」が 0%であった。全受講生が成果を実感できたようである。
- 回答者全員が満足していたが、何に満足していたかは不明である。
- 3クラスを比較した上で気付いたことだが、授業時間外学習時間の長さを実感する学習成果の間には正の相関が見られる。
- 論証型レポートの構成や文体、引用のルール等を学ぶことができてためになった、という意見が多く見られた。
- どのクラスも、十分得られた、概ね得られたという回答が多かった
- 自由記述によれば、レポートにおける引用方法や、書誌情報の記載方法などに関する解説を詳しく行った点については、好評であった。
- 「十分得られた」「おおむね得られた」の合計が 100%となっている。概ね、学修成果を実感できたものと思われる。
- おおむね良好。

(対応、授業改善案)

- 授業時間外学習の成果を成績に反映させる為の具体的な工夫法について解説していきたい。
- グループワークの最初に学生たちが時間進行を共有していた点は良かった。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 「積極的に促していた」59%、「おおむね促していた」38%で、合計 97%と高評価を得た。グループワークが自主的な考察を促す場として機能していると思われる。「あまり促していなかった」が 3%(1名)あった点は今後の参考にしたい。
- それぞれ授業時間外にも学習に取り組んでいたことは明らかだが、自主的に取り組んでいるような状況に導く教員の声かけや促しが不可欠とも考える。
- グループワークの時間を有効に使えず、それに対する教員による投げかけやアドバイスの提供が足りないかもしれない。ソロワークの時間が短い一方で、グループ・ペアワークの時間が長過ぎるという指摘があった。
- 授業中に最終レポートの執筆等、自主的な活動が多くできるよう、教員側の説明を最小限にとどめ、個別の質問等で対応するよう心掛けた。
- 質問や疑問点がないか、こまめに、学生の近くで声かけするように心がけた。

- ・ できるだけ色々な人とペアワークをするように学生に促した。
- ・ 提出された事前学習をプリントアウトして、学生が相互チェックしやすいようにした。
- 「積極的に促していた」「おおむね促していた」の合計 100%となっている。授業全体をとおし能動的に取り組んでいた。
- 講義時間内に、できるだけ学生が主体的に活動する時間を設けた。

(対応、授業改善案)

- 授業進行のシミュレーションを行い、適切なグループワーク進行を指導したい。
- 自分の意見を他の学生と共有しながら、具体的な改善案をもらっていた点は良かった。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 「とても良かった」41%、「おおむね良かった」52%で、合計 93%がポジティブな評価をした。一方、「あまり良くなかった」が 7%(2名)あり、今後改善していきたい。
- 回答者全員が満足していたが、何に満足していたかは不明である。
- 「とても良かった」に注目すると、クラス間で大きな開きが見られた。実感する学習成果との間で正の相関が見られる模様。教員の批判的発言を気にする学生も散見された。
- 概ね高い評価が得られたと思う。ただ、ペアワークや個人ワークが中心だったため、前期のようなグループ学習の継続を期待していた学生にとっては多少不満だったようだ。
- ▼学生から評価のあった点
 - ・ 学生に質問がないか問いかけを行い、ついていけないことがないようにしていた。
 - ・ 作ったものをプリントアウトして、それを周りの人に見せて改善案を話し合う点
 - ・ ワークシート通りに授業を進めてくれるのでこちらも受けやすかった
 - ・ 授業のペースがよく余裕を持って最終レポートを出せた
 - ・ パラグラフライティングを意識することで、他人が見ても分かりやすい文章を書くことに繋がった。
- ▼学生から指摘のあった改善点
 - ・ このままでお願いします
 - ・ 一つ一つの活動の進みが遅い
 - ・ 友達のいない人に優しくしてほしい
- 初年次セミナーⅡで各クラス共通で出している課題に加え、新聞切り抜きスクラップ作成を 2回にわたって計 14 記事行かせたが、これについて否定的な回答が一件あった。その回答をしている学生はまた「説教が長い」とも回答しており、教員の指導を「説教」としか受け止められず、かつ「長い」と述べていることから考えて、この学生は指導にしたがって学ぶ意志が薄弱であると判断する。
- 「とても良かった」「おおむね良かった」の合計が 96%となっている。また、ペアワーク、グループワークのメンバをもっと入れ替えてほしいとの意見もあった。
- テキストやワークシートにはない、教員自らの論文や経験を例示したことが評価されている。

(対応、授業改善案)

- 提出されたレポートに対しよりきめ細かいアドバイスを提供できればさらに改善されるはずだが、それらに要する時間との相談となってしまう。
- わかりやすい授業であるということと、段階的にレポートを書き進めることができた点を評価しているコメントが多かった。一部、進みが遅いという意見もあったが、3クラス中1人だけだった。3クラス中1名だけ、友達がいない人に優しくしてほしいという意見があったので、ペアワークの時に、より丁寧に対応したい。
- 指導に対する受けとめが弱い学生は、少数であれ必ずいるものであって、こちらが何をいくら改善してもこの点は変わらないと考える。
- 時間的・空間的制約はあるが、グループワークで、適宜、メンバを替え、いろいろな視点から意見をもらえるように工夫したい。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- manabaの機能として、授業アンケートの結果を受講生にフィードバックすることは可能である。回答の理由まで明らかにできない授業アンケートとそのフィードバックを現行のやり方で続けるべきか、そろそろ考えても良いのではないかと。
- 事後学習・事前学習の時間配分を考慮して事後学習課題(ワークシート)の提出期限を早めているが、これが悪評となっている。
- グラフなど図表に関する内容をもう少し詳しく扱う授業回があっても良かったのではないかとと思う。
- ワークシートがあった方が学生は授業を受けやすいと感じているようである。
- 学生による授業評価の正当性を本当に分析しようと思えば、少なくとも授業改善アンケートと成績との相関を見る必要がある(氏名がわからないように工夫することはできるはずである)。この点、FD委員会には強く改善を求めたい。
- 個人ワーク、グループワークにおいて、受講生は積極的に取り組んでいたと感じられた。
- 文献の引用に対してもっと時間を割くべきである。

(対応、授業改善案)

- 課題提出に1週間の猶予が本当に適切なのか、何らかの試行が必要かもしれない。
- これまでの授業で良かったところは、次年度の授業にも活かしていきたい。
- 10年にわたって継続してきた初年次セミナーⅠ・Ⅱであるが、担当教員としては貴重な経験ができた。新カリキュラムで担当する各必修科目がこの経験を活かす枠組み・内容を有するものになることを切望する。
- 学生達が、熟考し、意見を発信できる「場」「空間」を、さらに作って行ければと考えている。

体育・健康科学理論

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 「全くしなかった」、「30分未満」が合わせて36.1%であった。講義内では、レポート課題や小テスト、日常生活での健康行動の実践などを伝えているが、日常的な授業時間外学習として時間の確保は改善傾向にあるが、まだ低い状況にある。
- 全くしていない人が5%であった。全8回の授業で毎回manabaでミニッツを課しているため、0分は考えにくい。

(対応、授業改善案)

- 理論的に学習したことを実生活に移すことの重要性や、学びを意識して取り組んだことが授業時間外学習になることの周知を図っていききたい。

2) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 「十分得られた・おおむね得られた」の合算は98.8%であった。日常生活における健康の重要性や、体育・健康科学実習と関連した授業内容としていることから、学生が学びを深めやすい、学習成果を得られやすい授業になっていることが考えられる。

(対応、授業改善案)

- 必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の内容の整理を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように授業改善を行いたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は、99.5%であった。講義内では、manabaを使ったアンケートやレポートの回答内容や質問の共有を行い、他者の意見も知りながら、講義内容を自分事として考える機会となっていたと考えられる。
- 積極的に促していたが65%、おおむね促していたが34%であり受講生は自主的な考察・取り組みを実感している。

(対応、授業改善案)

- 200名規模の対面の講義形式の授業となり、学生の取り組み状況が見えにくいため、引き続きmanabaを上手く活用していく。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 「とても良かった・おおむね良かった」の合算は、98.9%であった。また、質問に対するコメント、教員自身の話や学生の身近な話題、最近のトピックを入れ込むことによって、興味関心を得ることができたと考える。また、座学ではあるが、身体を動かす時間を設けたことや、学生同士コミュニケーションを取る時間を設けたことも良かったと考えられる。
- とても良かったが58%、おおむね良かったが41%であり受講生は評価している。

(対応、授業改善案)

- 総合的な評価の高さを継続できるように、学部特性も踏まえながら、授業改善等を行っていききたい。特に、学生同士のコミュニケーションの時間を確保しながら、学びを深めることができる

授業となるように工夫していきたい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 学生数が多い講義となり、学生とのコミュニケーションが難しい状況であるが、manaba を効果的に用いることで、高い満足度、学習成果を学生が得ることに繋がると考える。また、学部の特性に応じたトピックを選択することで、興味を持って学びを深める姿勢に繋がると感じている。
- 大きな教室が利用できたため、220 名近くの学生が受講しても問題なく、授業を進めることができた。スライドは印刷及び manaba にアップデートしたことで予習・復習にもつながったと考える。

(対応、授業改善案)

- 学生の現状を把握しながら、学生の興味と取り扱う内容のバランスを大切にしながら、学生自身が運動や健康について興味関心を持てる授業構成を検討し、学習・探究時間を増やすことに繋げたい。
- 学生が健康について興味関心を持てる授業構成を今後も継続していく。

体育・健康科学実習

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 全くしていない人が 18%であった。紙媒体のレポート課題が 3 回、manaba への入力 が 5 回、スポーツ種目のルール等の確認などをアナウンスしているあるため 0 分は考えにくい。
- もう少し、授業時間外学習を充実させる必要がある。

(対応、授業改善案)

- 事前学習の考え方や実施方法について学生に情報共有していく。
- 授業時間外学習の内容を細かく提示したい。

2)受講生が実感する学習成果

- 十分得られたが 66%、おおむね得られたが 34%であり受講生は学習成果を実感している。
- おおむね成果を得られているようでよかった。

(対応、授業改善案)

- 引き続き、学生にとって学びの多い授業を展開したい。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 積極的に促していたが 71%、おおむね促していたが 28%であり受講生は自主的な考察・取り組みを実感している。
- 学生の多くが自主的に授業内容について考えを深められているようだった。

(対応、授業改善案)

- 今後も、学生と対話しながら授業を進めていきたい。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- とても良かったが 73%、おおむね良かったが 27%であり受講生は評価している。
- 学生が多くの仲間とコミュニケーションがとれるように授業をデザインしていく必要がある。

(対応、授業改善案)

- グループ分けのあり方について、実態に応じて対応していきたい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- アンケートの回収率が悪かった。補講日にアンケートを実施したためであると考えられる。
- 受講生の履修態度がこれまでに比べて、良くなかったように思われる。

(対応、授業改善案)

- 授業中にアンケートをとる時間を設けるだけでなく、日程も検討したい。
- 授業のルールをきちんと把握させるようにしたい。

英語

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 時間外学習に関する結果からは、課題の提出という点では概ね適切に取り組まれていたことがうかがえる。一方で、後半にはボーナスチャンスに挑戦するために予習に時間をかける学生も見られ、その結果、復習テストでの成果につながっていた。必須課題の達成という点では十分であったが、より高い成果を目指すためには、全体としてもう一段階踏み込んだ予習が望ましいと考えられる。
- The amount of outside study was a little lower than I hoped. I hope the new curriculum will lead to students engaging more with English outside of class time.
- 週平均の自主学習時間が、全体的に足りていない学生が多かったようだ。学生が教科書の予習・復習にもっと時間をかけるように、課題やテスト等をもっと工夫したい。
- 回答者総数 27 名(回答率 77.1%)。アンケート 1.2「授業外学習」に関しては、0 分1名(4%)、30 分未満 11 名(41%)、30 分～1 時間 8 名(30%)、1 時間～1 時間 30 分 4 名(15%)、1 時間 30 分～2 時間 2 名(7%)2 時間～3 時間 1 名(4%)。英語 IIB の科目の性格上、ペアワークや実践練習が中心であり、毎回の授業の予習は課さなかった。毎回の予習・復習に費やす時間のみを授業外学習と勘違いして、少なく見積もったのかもしれない。
- 課題内容と量を試行錯誤したが、概ね全学平均程度の学習量となったようだった。今後も、さらに内容を充実させたい。
- 30分から2時間程度の幅がある。クラスによって多少幅の程度が異なる。事前学習に比べ、事後学習の頻度はかなり低い。事後学習を学習内容の定着化を図る意味で徐々に増やしていくことで時間外学習量を増やせるかもしれない。
- 結果は概ね良好でしたが、授業外での自主学習時間を増やすことで、学生はより大きな成果を得られると考えられます。”毎週の自主学習の目安をより明確に示します。評価に直結した、

より体系的な課題を出します。学生に具体的な自主学習目標を設定させます。自主学習の重要性を定期的に伝えます。

2) 受講生が実感する学習成果

- おおむね成果を得られているようでよかった。引き続き、学生にとって学びの多い授業を展開したい。
- 学習成果の実感に関しては、十分に得られたと感じていない学生も一定数見られた。本クラスでは毎回グループ編成を変更しながら活動を行ったが、グループ活動に難しさを感じる学生もいた。また、使用教材の内容が一部の学生にとってはやや難しく感じられた可能性もある。加えて、発話や記述活動において、能力差が影響し、個々の達成感に差が生じたことも考えられる。
- Most students reported positive learning outcomes. I hope that they learned some practical presentation skills. I will continue to look for ways to show students how their English skills have improved.
- 「十分に得られた」「おおむね得られた」が計 90%に達しており、多くの学生が学習成果を感じている。一方で「得られなかった」とする回答が 10%存在し、一部の学生には授業内容が十分に理解できなかった可能性がある。つまずきやすい単元の確認時間を設け、板書・スライド・例示など多面的な説明を強化する。また、授業後半の振り返り活動(要点整理、ミニクイズなど)を増やし、学生自身が理解度を把握できるよう支援する。
- 学習成果を得られたと感じる学生が多かったようだ。ペアワークやグループワーク等も数多くできるような教材を工夫したい。
- 「十分に得られた」40%「おおむね得られた」20%となっているが、「あまり得られなかった」40%が気になる。グループ編成は自由編成にしたが、グループ学習に積極的に参加できた学生とそうでなかった学生の違いが大きくでていると思う。
- グループワークは好評のようなので、今後も続けたい。また教員がさらに質問を振ることでクイズレスポンスを求められるという状況も学生には好評のようなので、それも今後続けたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 授業時間内の講義内容に関する学生の評価は概ね良好であり、内容は適切かつ妥当であったことが示されています。講義内容の明確さと関連性を高め、学習目標との整合性をより強化していきます。
- 積極的と概ねが目立った。事前学習のみならず、授業の中でも、ゴールの見える発問を心がける。ときには必ずしもゴールがすぐには見えない問題提起もあってよいかもしれない。
- The results here were very positive which shows a satisfying engagement with the course content. I will continue to encourage students to actively engage with the course content.
- 授業後半のグループワークで学習内容を活用させていたので、「積極的に促していた」と「お

おむね促していた」が多かった。

- 「教員の促し」に関しては、積極的 17 名(61%)、おおむね 9 名(32%)、あまり促していない 2 名(7%)である。授業ではさまざまな自主的な勉強の仕方を教示している。英語の勉強には色々な入口があるので、随時楽しく学べる英語学習の仕方を伝えている。今後なるべく全員に英語学習へのモチベーションを持ってもらえるように努める。
- 「積極的に促していた」「おおむね促していた」が多かったようだ。ある程度自主的に取り組んでいたのではないかと思われる。今後できるだけ毎回全員に発言の機会をあたえるようにする。
- 「積極的に促していた」「おおむね促していた」が合計 90%であり、授業内での思考促進は概ね機能していたと評価できる。一方で 10%の学生が「あまり促されなかった」と回答していることから、活動の参加度に個人差があったことがうかがえる。ペアワークや小グループでの対話活動を継続しつつ、参加しにくい学生にも関わりやすい 短時間の意見共有、選択式ディスカッション、個別ワーク→共有 の流れを取り入れ、全員が思考に関与しやすい授業設計を強化する。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 総合的評価は概ね良好であった。英語を中心とした授業運営や、グループワークを通じた意見共有の機会、またボーナスチャンスの仕組みについて肯定的な意見が見られた。改善点としては、小テストの解答を manaba 上でも確認できるようにしてほしいとの要望があった。小テストの解答公開方法について検討し、復習しやすい環境づくりを進めていきたい。引き続き、参加型の授業形態を維持する。
- Students expressed appreciation for group and pair work, teacher feedback on assignments, and practical skill building. I will continue to encourage active English discussion, maintain my levels of feedback, and look for practical skills to build.
- 「とても良かった」「おおむね良かった」が 90%を占め、授業全体の満足度は高い。一方で 10%が「良くなかった」と回答しており、説明の分かりやすさや授業構成など、一部の学生にとって改善可能な点があったと考えられる。授業の導入部での目標提示や、まとめの時間の充実を図り、学習の流れを明確化する。また、理解が追いつかない学生へのフォローとして、例題追加や補足資料の提示など、学習支援の手厚さを強化する。
- 「総合評価」に関しては、とても良い 12 名(44%)、おおむね良い 14 名(52%)、あまり良くない 1 名(4%)である。
- 良かった点: 毎回パートナーを入れ替え、多くの人と交流できた。発音の練習重視。洋楽リスニング等、教科書以外の工夫。授業の内容を通して、授業後の復習と英作文をきちんと書くことができた。最後の授業までにテキストを完成させなければならなかったため、自主的に復習をするようになった。明るい雰囲気。指名されることがないので、英語をのびのびと楽しめた。
- 改善が求められた点: 思っていたほど実践的ではなかった、もっと対話と作文を重視すべき。

先生が優しすぎて、みんな寝たり、授業に集中していなかったので、生徒にランダムで回答させたり、音読はペアでやらせたり、もっと学生が授業に集中しなきゃ！と思えるようにするべき。だらだらした感じだった。

- ペアやグループでの活動が多く、受講生同士、受講生と教員と意見交流やディスカッションする機会が多かったことが評価された。学生の積極性が発揮されクラスの雰囲気も良く、学生が授業に集中できたようだ。
- 授業の発表の際に声が極端に小さい学生が見られたのでみんなが聞こえるように話すように注意した。しかしながらなかなか人前で発表が苦手な学生がおおく見られた。今後の注意の仕方を改善したい。
- 総合的な評価は概ね良好でしたが、一部の学生からは、授業内でのスピーキング活動をさらに増やしてほしいという意見がありました。この意見を踏まえ、授業内での発話機会を増やすため、より多くの体系的なスピーキング活動を取り入れていきます。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 英文要旨まとめや英作文は、AI で容易に作成できる環境にあるため、学生自らも着実に成長できる、AI との協働学習体制を真剣に考える時期に来ている。自己申告の形で、AI 利用に係るログの提出を義務付けてみることから始めてみたい。ログの累積から学生の変化の過程がどの程度確認できるかにも関心を寄せていきたい。
- 毎回ペアワークを行った。過去数年はペアワークに苦手意識がある学生も見受けられたが、今年度はコメントを見てもこの点についての内容が多くあり、また、好意的に捉えていて安堵した。言語を問わず、まずは隣に座った人と良いコミュニケーションができて欲しい。今後も様々な工夫を続けたい。
- 学生のレベルが個人によってかなり異なるのでより基礎的な学力の定着に心がける必要がある。もう少し優しいテキストに改めようと思う。
- 当初予定したクラスとレベルが違い、急遽テキスト見本を送ってもらい初めて使ったテキストであったが、学生に身近なトピックで賛成・反対意見を述べるという内容で学生も取り組みやすかったようだ。他学部の再履修生も受け入れたが、ペアやグループワークでも積極的に取り組んでいた。学生が予習や課題によく取り組み、授業でも積極的に発表してくれたのがクラスの学生の成長に繋がったのではと感じる。
- 理学部 2 年生のクラスなので、理工系の内容のテキストを選んだ。学生のモチベーションを上げる一助となった。必修の授業は学生の意欲をどう引き出すかが最大の問題である。語学力一般が大切なことはもちろんだが、比較的英語力が劣る学生には、コンテンツ重視のテキスト選択も効果的であろう。来年度も理工系の学生対象のクラスを担当する。同じテキストを使うが、理工系学生向けの自主教材も開発したい。
- 原稿作成、添削、発表という段階的な構成が、学習の流れを明確にし、取り組みやすい枠組みとなっていたと感じている。今後も準備・指導・発表が連動する構成を維持し、安定した学

習環境を整えていきたい。

- As this was a lower level class, some students wanted more explanation in Japanese. I will continue to challenge students to function with English only content, but may provide some Japanese help where needed.

初修外国語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 30分未満が3割程度というのは問題だが、他方で2時間から3時間という受講者も3割程度おり、やや両極端である。
- 授業外学修として e-learning を実施しているのにもかかわらず、例年と比べ学習時間がやや少なかった。
- 回答者の4割近くが「1時間～1時間半未満」と回答しており、全体的にさらなる時間外学習を望むところではあるが、ほかにも多くの授業科目を受講している事情を考慮するとやむを得ないと考ええる。
- 前期が少なかったようなので、今期は1-2時間程度の時間外学習を狙った課題を出したが、概ね狙いのおおりに思ったと思う。
- 「1時間以上1時間30分未満」が全体の24%、「1時間30分以上2時間未満」が15%、「2時間以上3時間未満」が24%、「3時間以上4時間未満」が10%あった。

2) 受講生が実感する学習成果

- 十分とおおむねで100パーセントではあるが、十分が3割程度とやや少ない。
- およそ4分の3が「十分得られた」、残りの4分の1が「おおむね得られた」と回答していることから、受講生は学習成果を実感していると判断できる。
- 概ね成果を実感しているようである。
- 70%が十分、30%が概ねということで大変満足の結果である。
- 「十分得られた」が85%、「おおむね得られた」が12%であった。

(対応・授業改善案)

- 継続して様子を観察したい。
- 十分に実感できる受講者が多くなるよう努力したい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 積極的にとおおむねで100パーセントではあるが、積極的にが3割程度とやや少ない。
- 授業ではペアワークや黒板での作文の発表など、努めて受講生の自発性を高める工夫を行ったが、1.4(受講生自身に授業内容について考えさせるような促しの有無)の回答や自由記述からも受講生がそれに対して応えていたことが窺える。
- どちらも100%の結果が出て嬉しく思う。
- 学生たちの回答では「積極的に促していた」が93%、「おおむね促していた」が7%であった。

(対応・授業改善案)

- 自由記述にもあるように、実際には受講者自身が考える時間は十分とっているが、そのことを受講者が意識できるように工夫したい。
- 引き続きこの結果を維持したい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 受講者がペアで考える時間をとっていることや、ドイツでの体験談などの文化的内容が評価されている。
- アプリを用いたり、席替えをして多くの学生と実践的にコミュニケーションを取ったりするスタイルに好意的な意見が多く寄せられた。
- 1.5 の総合評価は「とても良かった」(84%)「良かった」(16%)と高い評価になった。また自由記述からも受講生が楽しみながら積極的に学んでいることが分かる。ただ、受講者数に対して教室が小さかったため、受講生からはペアワークでの不便さを訴える声もあった。
- 具体的な指摘はなかったようなので、自身で気付いた点を以下に記入したい。
- 受講生の 95%の学生たちがアンケートに回答してくれた。学生たちがおおむね肯定的に評価をしている。毎回小テストとペアワークを実施していることや課題を添削して返していることを高く評価しているようである。

(対応・授業改善案)

- 評価されている点については、これからも継続していきたい。
- 適正規模の教室の確保を引き続きお願いしたい。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 前期に比べて内容が複雑になったので、グループワークが減ったり、グループワークをしても複雑になったりして、個人ワークに近くなった点は改善したい。
- 授業進度や授業内容の補足説明、独検の参考資料などを manaba 上に掲示して、自主学習の便宜を図った。その結果、数名(1割)の学生が独検を受験するなど、受講生の自主性・自発性を促すことができたと考える。
- すべて対面で実施したので、学生同士の交流ができたことや理解度をその場で確認できたことがよかった。学生たちがわからないところはすぐ質問できるような環境づくりに心がけた。受講生全員が積極的に取り組んでくれたことがよかった。

(対応・授業改善案)

- グループワークの到達点を細かく設定するなどして、グループワークの方法論を見直したい。
- manaba をあまり利用していない受講生も散見されたので、学期の開始時に周知したい。

日本語・日本語事情

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 標準的な時間であり、予復習や授業課題の負担は適正であったと考える。

2) 受講生が実感する学習成果

- 一定の学習成果を得たものとする。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 少人数クラスの特性を活かしたやりとりができたことへの評価と捉えている。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 肯定的に評価されたものとする。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 過年度生向けの少人数クラスであり、通常の授業以上に受講生への指導や指示を明確にし、過度な負担が起きないように配慮した。今後も過年度生対応があれば同様に対処したい。

教養教育科目(選択科目、基礎教育入門科目、実験科目)

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 概ね良好な結果と思われます。
- 1時間未満の学生が約8割に達していた。
- 15回合計で学習時間7.5時間未満の学生が4割程度いた。
- 事前配布している資料を事前チェックしている様子が見える。
- 30分未満が13%とあることが懸念として残る。
- 30分以上1時間未満という回答が多かった。30分未満という回答も多かった。
- 平均すると、大学設置基準で要求されている標準的な授業時間外学習には達していないと思われる。優秀な学生はそれを越えて学習していると思われるが。
- 予想より学習時間が少なかった。
- 授業時間内にレポートを提出させるスタイルに戻した途端、学習時間が減少した。

(対応、授業改善案)

- できるだけ早めに配布資料を公開する。
- 授業時間内で考える時間を設けるようにしている。
- 自宅学習で参考になる情報(参考書やホームページ等)の提供や課題を出すことを検討する。
- 授業の後半にかけて課題の負荷が高まって行くことから、前半でも負荷をかけた小レポートを課す。
- 復習テストの実施。
- 適切な課題分量を与えており、これを維持する。

- より考えさせる課題になるよう工夫したい。

2) 受講生が実感する学習成果

- 極めて良好な結果と思われます。
- 回答者全員が学習成果を得られたと回答している。
- 十分得られた学生が 85%、おおむね得られた学生が 34%であった。
- 100 名を超える授業であるが、ある程度学んでよかったと感じているようだ。
- 学習成果は十分得られた、おおむね得られたのみの回答であった。
- 十分得られた、おおむね得られた の合計で 100%となった。
- 十分得られた、おおむね得られたという回答が多かった。
- 焼酎の歴史や製造方法、香りの特徴などについて体系的に理解を深めたと実感している。
- 予習課題について、その意義を正面から受け止め、学習に生かしているという回答が多く見られた。また、予習課題について受講生間で議論をさせたことも好評であった。
- 期待する成果が得られている。

(対応、授業改善案)

- 授業後に意欲ある学生の学びの機会として大学外のビジネスプランコンテスト等を紹介する。
- これ以上の成果を求めるならば、受講者数を制限する必要がある。
- 授業のスライドの間違いや内容について、よりわかりやすくなるよう改善する。
- 受講生の意欲をかき立てるよう努力する。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 良好な結果だったと思われます。
- 100 名を超える授業であるが、manaba のアンケートを使うことで授業中にも色々考えている学生がそれなりにいた。
- グループディスカッションでの交流、書籍や授業に関係する映画の紹介などが好評であった。
- 前授業回のアンケートを紹介することで、他人の意見に触れられたり、質問に回答していたりすることを評価する学生が多かった。
- 自分を振り返る時間(自己内省)を確保したことが、その後の学びの姿勢に繋がったと評価している。
- 講義後にレポート作成時間を設けたことで、自ら考察する機会が確保されていた。
- 事後学習用の小テストの提供、学生同士で考えたことをアウトプットする時間の設定、簡潔なフィードバックを実施。
- 授業時間中の取り組みも極めて熱心で、授業終了後などに残って質問する学生も多い。
- 考えさせる内容だったの回答が多かったことは良かった(対応、授業改善案)
- (改めて改善すべき点は思いつかないが)今後も、同様の取り組みがなされるように、臨機応変の対応ができるようにしていきたい。

- 引き続き講義時間中に練習問題を考えさせる時間を取りたいと思う。

(対応、授業改善案)

- 現在の取り組みを継続する。
- 予習レポート、アンケートなどの内容を改善する。
- 今後も学生に能動的な学習を促すように改善していく。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 極めて良好な結果と思われます。
- グループディスカッションをもっと増やしてほしいとの声があった。
- 総合評価は良好。
- 授業中の体験実験に好感を持った学生が多かった。
- 最終発表会で学生からも意見や質問を行いたかったというコメントがあった。
- オムニバス形式により多様な視点から学べた点は評価されている。
- 講義内容の重複、進行の速さ、評価基準の分かりにくさ、資料提示方法などへの改善要望が見られた。
- 学生から評価のあった点:わかりやすい解説、面白い仮説を紹介、イラストを活用した説明、スライドの充実、テーマに関する映画の活用、自分の身近な疑問との関連の発見。学生から指摘のあった改善点:最終レポートに関する説明の長さ、復習時間の長さ、グループワークの方法。
- 計画的な授業進行や、時間に余裕をもって課題などを提示することについては、評価が高かった。一方で、個人の事情により授業スケジュールが乱れた点は反省したい。(対応、授業改善案)
- 少なくとも、このクラスにおける現状の満足感を、他のクラスでも同様に感じられるように、試行錯誤したい。
- 改善点に関しては、学生からの指摘が特になかった。
- 視覚的にもわかりやすい説明になる様に、今後も心がけたい。
- 「とても良かった」が増加するように授業運営方法を工夫していきたい。

(対応、授業改善案)

- 今後も身近な例をたくさん取り上げ、わかりやすい授業の継続を心掛けたい。
- 小テストなどの回答時間については工夫が必要かもしれない。
- 授業内容を見直し、アップデートを行う。
- 質疑応答時間の確保や、スマホを使った意見収集策を導入する。
- スライドの視覚的な理解のしやすさ、グループワークのやり方等、改善が進んだ。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 100名を超える授業で、10%程度は授業中に他のことをして、メモも取らないようだ。

- 遠隔授業の講義ができています。
- 授業をオンラインで行っており、学生との距離感が遠く、学生の反応が掴みづらいように感じる。
- レポートに chatGPT を利用している学生が大半のようであり、対策に苦慮する。
- 授業態度は総じて誠実であったと評価しているが、グループ学習において他者と衝突しても意見をぶつけ合い、高みを目指す姿勢がやや不足しているように感じた。
- 年々、学生の学習時間が減っているような気がする。調べ学習が簡単になったからかもしれない。
- 履修生の所属学部によって取り組みに格差がある。学部の責任ある立場の教員と一度、意見交換したい。(対応、授業改善案)
- この科目は毎学期、クラス(=受講生の学部・学科・コースなど)によって取り組みに差があり、その差についてはほとんど固定化している。その原因を解明したい。
- 事前学習に関し、もう少し具体的な指示を出すように工夫したい。
- ややマンネリ化していないか気になった。

(対応、授業改善等)

- 受講者数を制限する方法もあるが、受講できない学生も出る。
- 学生の反応や理解度に気を配って、学生の意見や反応をくみ取って授業を進めたい。
- 全学部に引きつけた内容にしているが、もっと理工系の学生向けの内容を取り入れたい。
- 議論の発散と収束を意識させるグループ学習の徹底。
- 自分で調べてもわからなかったことだけを質問するなど、学生の学習時間を増やして、教員の負担が減るように、アンケートの取り方を工夫したい。
- 学習意欲の乏しい履修生に対する対策を採りたい。
- 出席の意欲がわく講義に少しでもしたい。

教養活用科目・高度共通教育科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 学習時間 30 分未満が 53 %と少ない
- 明らかな誤記入として「全くしなかった」が 1 件あることを除けば、30 分以上は学習したとする回答が大半で、平均よりやや良好である。2 時間以上と回答した割合が 32%となっている点は特徴的であり、熱心に取り組んだ学生が一定程度存在していたと言える。ゲスト講師を中心としたオムニバス授業であることを考えれば、改善が進んだと評価できる。
- 「30分未満」と「30分以上1時間未満」が多かった。主に課題に取り組んだ時間と考えられる。
- 9割以上の学生が週当たり2時間以上、3割近くの学生が週3時間以上、授業外学習を行なった。このような統計分布は、開講以来6年連続で達成している。学習量については好意的に捉えられている。
- すぐに関心を持って履修している人と、気楽な気持ちで履修している人に明確に分かれてい

るように見えることと、授業時間で課題まで終了できるようにしているので、妥当な数字に思います。また、授業を受けて、ニュースの見方や考え方が変わっている学生が多いと思うので、その影響までみれば、より長いと考えます。ただ、半数が30分程度なのは、少し短いと思います。

- 30分未満と、30分以上1時間未満の学生が多く、やや学習時間の短さが認められる。
- 30分未満～10時間以上15時間未満まで、かなりばらつきが見られた。全くしなかった学生は見られなかった。屋久島における実習形式の短期集中講義であるため、時間外学習をする機会が限られていることも一因であろう。
- 「6.10時間以上15時間未満」となっており、適切に学習時間が確保されていた。

(対応、授業改善等)

- 予習課題を考えたい。正直復習時間には向かない内容が多い。
- 本授業はオムニバス形式で、ゲスト講師の経験を振り返る講話が中心となっている。講話内容を材料に社会科学的なまとめに挑戦することを最終レポートの課題とした。一方、毎回の授業後の小レポートでは感想をまとめた程度の内容を許容しつつ、同時に最終レポートへの準備を築成するような課題を盛り込んだ。このような本授業の全体像を初回授業回で説明し、最終レポートへの意識づけを行ったことが有効であったと考えている。
- オムニバス形式で内容が多岐にわたり、指定教科書がないため、やむを得ない面がある。
- 時間をかけて学習した甲斐があったと納得してもらえる様に、課題に対するフィードバックを充実させていきたい。
- ニュースや時事ネタなど、学生が自身で調べたいような内容を増やすようにしたいと思います。
- 授業時間外の学習が大きな負担にならない範囲で増えるよう工夫したい。
- 事前学習から実習までの期間に、各自で予習や下調べなどをしておくように促す。
- 授業時間外学習での指示等においても manaba が有効活用できた。

2) 受講生が実感する学習成果

- 十分得られた・おおむね得られたが92%
- 「十分得られた」と「おおむね得られた」が多かった。
- 9割以上が学習成果を感じているが、十分だと実感した学生が4割弱に留まった。授業中や課題レポート提出後に、理解できなかった内容をフォローしきれなかったからかもしれない。
- アンケートに回答してくれる学生は、授業に対してプラスに感じていたか、逆に大きくマイナスに感じていた学生と推測しています。回答率が25%程度の中で、「十分に得られた」60%、「おおむね得られた」40%は、学生の期待に十分応えたとは言えず、改善の余地があると思います。
- ペアワークを通して相手の考えを知ることができたという感想が多かった。一方、ペアワークが苦手という学生も少なからずおられた。

- ほぼ全員が今回の学習の成果を実感できていた「十分得られた」との回答となっており、自身の考えを皆に対して積極的に発信していた。

(対応、授業改善等)

- 社会科学的な検討を課題とする最終レポートへの意識づけに加え、ゲスト講師による講話内容が充実していたことから、良好なアンケート結果となったように思われる。
- 「十分得られた」が増えるよう引き続き努力したい。
- 受講生からの素朴な疑問・質問を引き出し、それらを丁寧に解説する姿勢を継続したい。
- 毎回、自身が行っているアンケートでは、私自信の経験や考えていることをもっと聞きたいとの意見がよく見られたので、そういった内容を少しだけ増やすことを考えます。
- 事前に周知をシラバスでしっかり行う。
- 特になし。今後もこれまで同様に、より成果を実感できるような実習を心掛ける
- 今後も、一人一人がコメントする時間を十分に確保する。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 積極的に促していた・おおむね促していたが 98 %。
- 平均よりも良好である。
- 「積極的に促していた」と「おおむね促していた」が多かった。
- 100%の受講生が多かれ少なかれ自主的な考察・取り組みを行う必要性を理解してもらえたはず。ただし、インターネットで調べること、それらの結果に基づいてグループワークに落とし込みグループ内で理解を共有し深める工夫が必要である。
- 私が講義した、講義期間の前半は考える時間が多く、講義期間の後半の、ゲストの講義の時は、考える時間がほぼないという構成だったので、前半に欠席の多かった学生は、「あまり促していなかった」と捉えたのかと思いました。
- 感想を聞く中で、授業内容から発展して考え、過去の体験を振り返る学生も見られた。
- 2名は「おおむね促していた」、それ以外の全員は「積極的に促していた」という回答であった。グループ分けして調査から発表まで行うアクティブラーニングを柱とした授業であり、自主的に考察を促すよう心がけている。
- 多くが「積極的に促していた」との回答となっており、成果報告会に向けて、自主的・積極的に練習を行っていた。

(対応、授業改善等)

- ファシリテーションスキルを活用したペアワーク、チャット用いたゲスト講師との質疑応答など、受講生にとって無理のない仕組みを作ったことが有効であった。また、思考を深めなければ対応できない課題を最終レポートにて設定しており、学習方法が難しいとの指摘が1件あった反面、この部分にこそ学ぶことの面白さや自身の成長の自覚が得られたとの自由記述が複数寄せられた。受講生にとって、適切な難易度でチャレンジすることは楽しにつながるようである。
- 「積極的に促していた」が増えるよう引き続き努力したい。

- インターネットを駆使して情報を集約した後、どの様に課題遂行に役立てていくべきか、この点に関する助言を充実させる必要があるだろう。
- 今後もこれまで同様に、より学生が自主的に課題の検討や調査、発表を行えるよう促していきたい
- 学生達が、熟考し、意見を発信できる「場」「空間」を、さらに作って行ければと考えている。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- とても良かった・おおむね良かったが 91 %。
- 平均よりもやや良好である。こちらが用意した種々の仕組みについては、おおよそ好意的に受け入れられたと評価できる。ただし、最終レポートの文字数を多くしてほしいとの指摘が複数見られた。
- 「とても良かった」と「おおむね良かった」が多かった。自由記載でも歯科の専門的な知識を多く学べた、オンラインで受講できた、この講義を取って良かったなど概ね好評だった。一方、授業の通知を早くしてほしい、課題の提出期限を延長してほしいなどの要望があった。
- 好意的な評価が 88%に達した。シラバスで授業時間外での学習時間の平均を正直に提示した結果、熱意ある学生が受講した結果だと考えられる。
- アンケートに回答してくれる学生は、授業に対してプラスに感じていたか、逆に大きくマイナスに感じていた学生と推測しています。回答率が 25%程度の中で、「とてもよかった」70%、「おおむねよかった」30%は、まだ改善の余地があると思われました。
- ファイルをデータとしてほしいとのことであり、個別に対応していたが次回からは全体に期限を設けて送付したい。
- 総合的に全員が「とてもよかった」という評価で、自由記入でも前向きコメントが多数寄せられた。改善点には「指導者の連絡が不足しがち」というコメントが1件寄せられたので、次年度以降の実習ではその点を注意して臨みたい
- 多くが「とても良かった」との回答となっており、成果報告会では、来場者の方からの質問にも丁寧な説明がなされていた。

(対応、授業改善等)

- 最終レポートの文字数は意図的にやや少なくしている。その方が理解度を測りやすいと考えているからである。全体的によく書けた最終レポートが多く、有効に働いたのではないかと考えている。
- 授業の通知については、教員間で情報共有し、改善を図りたい。課題の提出期限について、小テストは一律当日の 23:59、レポート等は担当者の裁量としている。
- 高校で理数系科目をほとんど履修していない学生にも基本的事項についての理解度を深める工夫が必要である。また、内容を少しずつ変えていき、授業に新鮮さをもたらしたい。科学レポートの形式にこだわらず、一部クイズ形式も取り入れても良いかもしれない。
- コメントを見ると、各授業の全体構成はよさそうなので、学生への連絡について、より注意を払

いつつ、実習を進めていく

- 成果報告会において、質問を想定し、回答案、対応案を準備していた点良かった。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- 授業アンケートを講義ごとに毎回取っていたせいもあって、授業改善アンケートに対する回答数が少なかった。73件。
- 履修生 291 名に対し、アンケートへの回答者が 57 名と少なかった。
- アンケート回収率が低かった。受講生が年と共に減少している。授業形式やレポート課題についていけない・困難さを感じている学生が増えてきた結果では？
- 自身の行っているアンケートや今回のアンケート結果からは、全期間を通した構成や、各回の時間配分は、学生にとっても関心を維持できるものになってきたと思います。
- 途中で興味がない内容になると内職を行っている学生も見られた。
- 参加学生は複数の学部からなる主に学部1～2年生であるため、野外実習で大きく羽目を外すことなく、真摯に取り組む姿勢が窺えた。
- 本授業では、対面授業と遠隔授業の併用にて実施したが、学習成果において特に問題は見受けられなかった。今回、受講者が限られているものの、今後、本授業に限らずアンケート回収率のアップに努めたい。

(対応、授業改善等)

- 授業アンケートに対して別途回答時間を設定したい。
- この授業自体を2年生前期で履修することを勧める(1年生が受講しても良いが、もう1つの同様な科目を受講すれば良い)。
- 個別の内容の説明などで、学生がより興味を持ち、わかりやすい説明に工夫することが必要だと思います。
- 興味がある内容にすることやワークを取り入れながら授業を組み立てていきたい。
- 安全面はもちろん、学外の環境教育施設を利用させていただくため、学外団体に迷惑をかけないよう、特に注意して実施する。
- 今後も対面授業と遠隔授業に関しては、内容やバランスを配慮する。

公開日 令和8年6月23日

文責 鹿児島大学共通教育センター

令和8年度FD委員会委員長 井村隆介